

会津曆ゆかりの施設ガイド

会津藩校日新館
 ☎0242-75-2525 【交】
 「会津若松駅」よりバスで
 「会津藩校日新館」下車すぐ
 【開】9:00~16:00(観
 覧受付) 【料】600円

会津新選組記念館
 ☎0242-22-3049 【交】会津
 若松駅よりバスで「七日町中央」
 下車すぐ 【開】10:00~17:00
 頃 【休】不定休 【料】300円

鶴ヶ城 ☎0242-27-4005
 (会津若松市観光公社) 【交】会
 津若松駅よりバスで「鶴ヶ城北口」
 下車、天守閣まで徒歩約15分 【開】
 8:30~17:00(入城締め切りは
 ~16:30) 【料】500円

諏方神社
 ☎0242-27-7427 【交】会
 津若松駅よりバスで「竹田線
 合病院前」下車、徒歩約5分
 【開】境内拝観自由

土津神社
 ☎0242-62-2160 【交】JR
 磐越西線「猪苗代駅」より車で
 約10分 【開】境内拝観自由

松平家御廟所
 東山町院内の山
 中にある、会津
 松平家の広大な
 墓所。2代目正
 経以降、歴代藩
 主が葬られる。
 ☎0242-39-1251 (会津若松
 市観光課) 【交】「会津若松駅」
 よりバスで「院内」下車、徒歩約
 10分(入り口まで) 【開】拝観自由

江戸の天文学者・安井算哲、
 800年の歴史をひっくり返す
『天地明察』
 9月15日(土)ロードショー
 2010年の本屋大賞
 に輝いたベストセ
 ラー小説が、いよいよ
 よ映画化。監督は
 『おくりびと』の滝
 田洋二郎、主演・岡田
 准一、宮崎あおいで
 送る感動の物語。
 共同配給/角川映画 松竹 ©2012天地明察製作委員会
 www.tenchi-meisatsu.jp



福島県立博物館 鶴ヶ城の三の丸跡に建てら
 れた博物館。会津歴も常設されている。
 ☎0242-28-6000 【交】JR磐越西線「会津若松駅」よ
 りバスで「鶴ヶ城三の丸口」下車すぐ 【開】9:30~17:00(観
 終入館は~16:30) 【休】月曜、祝日の翌日 【料】260円



※記事内でご紹介した施設・店舗にお出掛けの際は、事前のご確認をおすすめします。

コーナン B2716 曆の歴史を学び、会津の文化に触れる2日間

出発日 9/30(日)、10/12(金)
 ●宿泊日数/1泊2日 ●募集人員/各30名 ●最少催行人員/各20名
 ●旅行代金/大人1名様(単位:円)

東京駅発着	1室2~4名	35,800
	1室1名	38,800

- ◆ツアーのポイント
- 「福島県立博物館」では会津歴のお話を伺えます。(講話:福島県立博物館主任学芸員・阿部綾子氏)
 - 2日目は会津藩歴代藩主の墓所、松平家御廟所を見学します。
 - 旅の最後に、下野街道の宿場町、茅葺き集落の大内宿を訪ねます。



ホテルグランデコ/客室の一例

「旅市夏の旅」(全36コース)
 好評発売中!!
 詳しくは、JR東日本の主な駅のひゅうぷラザにあるパンフレットをご確認ください。
 「旅市」サイトでもご覧いただけます。
 www.jreast.co.jp/tabiiichi/

行程	食事
東京駅(9:00~10:00) (東北新幹線・普通車指定席)	☑昼 ☑夕
新白河駅 (会津若松) (昼食) (飯盛山散策 (ガイド付き) ●会津藩校日新館 (学芸員のガイド付き) ●ホテル(18:00頃)	
1 (泊)会津裏葛梯/ホテルグランデコ(洋室)	
ホテル(9:00頃) ●会津新選組記念館 ●松平家御廟所 (会津藩歴代藩主の墓所) (昼食) ●大内宿(茅葺き住居が並ぶ下野街道の宿場町) ●新白河駅 (東北新幹線・普通車指定席) ●東京駅(18:00~19:00)	
2	

※2階建てMaxやまびこ号又はMaxなどの号をご利用の場合は1階席となります。
 ※往復とも上野駅、大宮駅で途中下車が可能です(運賃はあがりません)。お申し込み時にお申し出ください。
 ※ご注意(P.33参照) / (確保) (確保) (確保)

旅行企画・実施 JR東日本グループ (株)びゅうトラベルサービス

上記コースの (株)びゅうトラベルサービス 03-3841-0121
 お申し込み先は 大人の休日予約センター ※お申し込みは1番を押してください。



昨年、赤瓦に葺き替えられ、幕末当時の姿が再現された鶴ヶ城



土津神社の保科正之の墓。安井算哲は改暦後、正之の墓前に「改暦井」を奉納したという



会津新選組記念館には、館長が集めた幕末の資料が豊富。会津歴も70冊ほど収蔵



庶民にとって一番身近な日々の記録であった曆。日記や手帳のように、その年あつたことが書き込まれた曆も多く残されている (会津新選組記念館蔵)

会津藩五代藩主松平容保の時代。文武両道の教育を掲げ、享和3(1803)年に完成したのが藩校、日新館。しかし、戊辰戦争の折、戦火に見舞われ日新館の建物は焼失。現在、唯一残っているのが石積み天文台だ。当時、天文台を設置していた藩校は全国でも会津、水戸、薩摩の3校のみ。会津藩が天文学に力を注いでいたことがうかがわれる。その天文台跡の石垣を登れば、家々の屋根の向こうに、昨年、赤瓦に甍つた鶴ヶ城の天守が見える。かつてこの天文台と城の間に日新館の建物があったことを想像すると、その規模の大きさは驚かされる。

そうした会津藩の数々の歴史の根幹にあったのが、保科正之の遺言。正之が定めた「家訓」にある、将軍家への忠誠の精神は広く知られるところだ。鶴ヶ城からは丑寅(北東)の方向、猪苗代湖近くの土津神社に正之は眠り、今も会津の城を見守り続けているという。夜、天文台跡で空を見上げてみた。北斗七星がきらめき、月が空を明るく照らしている。ふと、「天地明察」に書かれた一節が頭をよぎる。「曆は約束だった。泰平の世における無言の誓いと。言つてよかった。明日も生きている。明日もこの世はある。天地において為政者が、

人と人とが、暗黙のうち
 に交わすそうした約束が
 曆なのだ。」
 安井算哲が見上げた空、
 日新館の生徒が見上げた空。
 そこには多くの希望の星が
 瞬いていたはずだ。ひたすら
 夜空を見つめながら天と地、
 過去から現在へと思いをめぐらす。時にはこんな旅があつてもいいだろう。



会津歴が作られていた諏方神社。会津歴が「諏方曆」と呼ばれたのはこのためだ。境内に残る木造の鳥居は、戊辰戦争の生き残り。鉄砲の弾痕が生々しく残る